

授業実践研究
道徳科 授業実践研究部

研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点からの指導の工夫
～伝え合いを通して自己の生き方についての
考えを深める授業の展開～

小手指小学校	桜井 朋美（リーダー）
北小学校	佐々木 祐太
明峰小学校	青木 ふく
伸栄小学校	菊地 千尋
中央小学校	塩浦 仁美
美原中学校	鈴木 斐洋

担当指導主事
岩土 陽裕

道徳科授業実践研究部

I 研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点からの指導の工夫

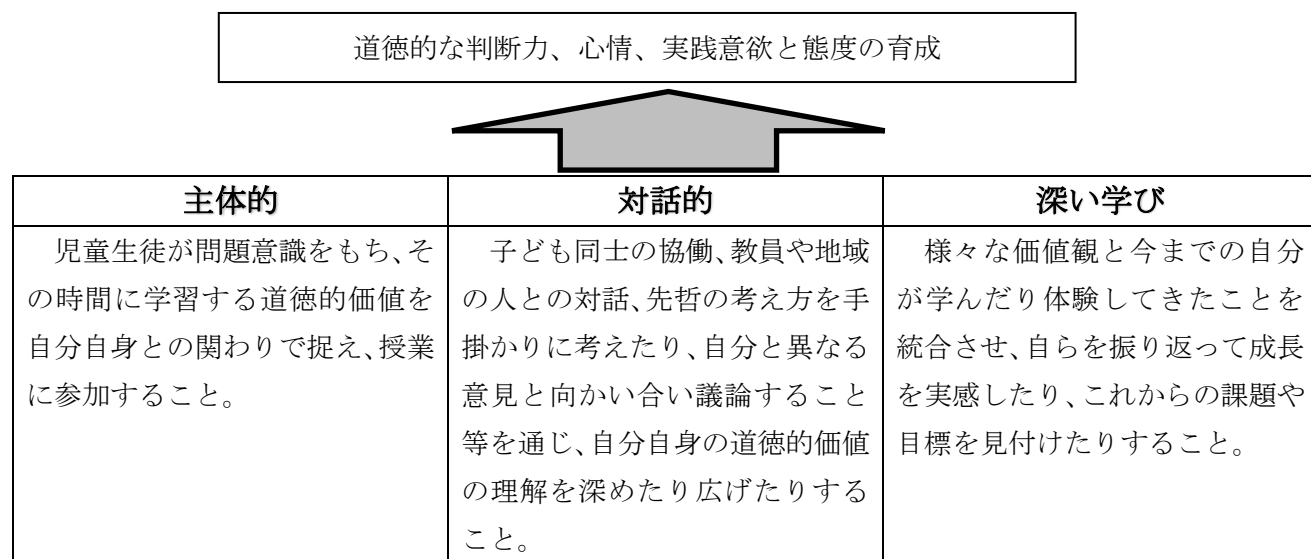
～伝え合いを通して自己の生き方についての考えを深める授業の展開～

II 研究主題について

子供たちがこれから生きていくのは、私たち大人には想像もできないような変化の激しい社会である。その社会を生き抜くためには、人と人とのつながりがより重要になってくるのに伴い、道徳教育がますます重要になってくると考えられる。小・中学校学習指導要領においては、今回の改定により、道徳教育と道徳科の目標を「よりよく生きるための道徳性を養う」ものであると統一し、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」と規定した。（括弧内は中学校学習指導要領における表記）

私たちは、この道徳性を養うために、学習の中で「道徳的諸価値の理解」と「自己の（人間としての）生き方についての考えが相互に関わり合い、深め合うこと」が必要であると考えた。このような学習を通して、道徳教育・道徳科で育成することを目指す資質・能力である「道徳性」を養うことにつながっていくのではないかと考えた。

そこで、私たち研究部では、以下の図のように研究主題について考えた。



主体的・対話的で深い学びの視点からの指導の工夫

III 研究の内容

1 研究の方向性

児童生徒の実態を把握するため、年2回アンケートを行った。その結果から、聞くことは好きだが、話すことには苦手意識をもっている児童生徒が多いこと、また、授業の中で新たな気づきや学びを得たり、なりたい自分をイメージしたりしている児童生徒が少ない傾向にあることがわかった。

<道徳アンケート>

- ①道徳科は好きですか。(主体的かどうかの考察)
 ②道徳科は大切だと思いますか。(主体的かどうかの考察)
 ③道徳科の授業の内容を自分のこととして考えていますか。(主体的かどうかの考察)
 ④道徳科で自分の意見を言うことができますか。(対話的かどうかの考察)
 ⑤道徳科で相手の意見をよく聞くことができますか。(対話的かどうかの考察)
 ⑥道徳科で、新たな“気づき”や“学び”はありますか。(深い学びかどうかの考察)
 ⑦道徳科でなりたい自分をイメージすることができましたか。(深い学びかどうかの考察)

<平成30年度 1学期>

<平成30年度 3学期>

	小学生			中学生				小学生			中学生		
	A	B	C	A	B	C		A	B	C	A	B	C
①	62%	31%	7%	55%	42%	3%		62%	33%△	2%▼	74%△	23%▼	3%
②	82%	14%	4%	86%	14%	0%		93%△	6%▼	1%▼	89%△	11%▼	0%
③	60%	31%	9%	76%	17%	7%		59%▼	38%△	3%▼	72%▼	23%△	5%▼
④	59%	26%	15%	54%	34%	12%		52%▼	31%△	17%△	50%▼	35%△	15%△
⑤	76%	20%	4%	92%	8%	0%		86%△	12%▼	2%▼	97%△	3%▼	0%
⑥	62%	27%	11%	72%	23%	5%		74%△	24%▼	2%▼	84%△	10%▼	6%△
⑦	54%	27%	19%	56%	25%	19%		66%△	23%▼	12%▼	56%△	31%△	13%▼

回答：Aはい Bどちらとも Cいいえ

2 仮説と手立て

本研究部では、以上のアンケートの結果を踏まえ、仮説と手立てを考えた。

<仮説>以下の様な授業を行えば、お互いの考えを伝え合い、多面的・多角的に考えることができるとともに、学びが深まり自己の生き方についても考えられるのではないかと。

- ①学習テーマを設定した授業
- ②役割演技を活用した授業
- ③小中連携を生かした授業

<手立て>

- ①児童生徒の問題意識を基にした学習テーマの設定
- ②話合いの工夫（尋ね歩き、ペアやグループでの話合い、考える時間の確保）
- ③役割演技の工夫（道具の活用、教師との役割演技）
- ④他校の児童生徒や教員などの人材の活用
- ⑤自己の生き方を考えさせる振り返りの工夫

V まとめと課題

1 アンケートの結果から

<令和元年度 1 学期>

	小学生			中学生		
	A	B	C	A	B	C
①	58%	35%	7%	71%	0%	29%
②	92%	7%	1%	100%	0%	0%
③	62%	23%	15%	86%	0%	14%
④	59%	28%	13%	63%	9%	29%
⑤	90%	10%	0%	100%	0%	0%
⑥	69%	22%	9%	94%	3%	3%
⑦	68%	19%	13%	77%	3%	20%

<令和元年度 2 学期>

小学生			中学生		
A	B	C	A	B	C
60%▼	33%▼	7%	59%▼	35%△	6%▼
91%▼	6%▼	3%△	97%▼	3%△	0%
56%▼	36%△	8%▼	76%▼	18%△	6%▼
65%△	22%▼	13%	47%▼	41%△	12%▼
85%▼	12%△	3%△	100%	0%	0%
60%▼	33%△	7%▼	82%▼	18%△	0%▼
50%▼	31%△	19%△	56%▼	35%△	9%▼

回答：Aはい Bどちらとも Cいいえ

- ・③「自分のこととして考えているか」は、小中とも A の数値は下がったが、C の数値が下がり、B の数値が上がっているため、課題はあるものの一定の成果があったと考えられる。
- ・④「自分の意見を言うこと」は、小学校では大幅に数値が上がった。また、中学校でも C の数値が下がり、B の数値が上がっているため、成果があったと考えられる。
- ・⑦「になりたい自分のイメージ」は、中学校で数値が上がっているため、成果があったと考えられる。

2 手立てに関する成果と課題

・手立て① 児童生徒の問題意識を基にした学習テーマの設定

成果：アンケートなどを活用し、学習テーマを設定することで、児童生徒一人一人が自分と道徳の教材とを結びつけて主体的に授業に参加することができた。話すことが明確になっているため、積極的に発言する姿も見られた。（主体的・対話的）

課題：アンケートの内容を児童生徒の実態や問題意識にあったものにする必要がある。また、「考えること自体が難しい」と感じている児童生徒へのアプローチが必要となる。

・手立て② 話合いの工夫

（尋ね歩き、ペアやグループでの話合い、考える時間の確保）

成果：児童生徒が話す機会が増え、自分の考えを話す場面が多く見られた。発表に自信のない児童生徒も安心して自分の意見を伝えていた。（主体的・対話的）

課題：発達段階に応じた目標となる話合いの姿を教師が持ち、指導していくことが必要である。

低学年の例) 自分の意見を相手に伝えられるようにする。

高学年の例) 相手の意見に対して自分の疑問や考えを伝えられるようにする。

・手立て③ 役割演技の工夫（道具の活用、教師との役割演技）

成果：小物を用意することで、児童に「演じてみたい」という気持ちをもたせ、発表することへの抵抗感を減らすことができ、積極的に発言する姿が見られた。教師が役割演技を行うことでさらに価値理解を深めさせたり、見ていた児童にも感じたことを話させたりすることで、多面的・多角的に捉え、考えを伝え合うことができた。

（主体的・対話的）

課題：「演技がよかった」という意見も多く出てしまいがちなので、登場人物の気持ちや、自分がどう感じたかについて意見を言うように声かけし、価値理解につなげていくことが必要である。

・手立て④ 他校の児童生徒や教員などの人材の活用（小中連携）

成果：同年代だけでなく様々な価値観に触れ、多面的・多角的に考えることを通して学びを深めていく様子が見られた。6年生は、中学校への期待を高めることができ、中学生は、小学校教員と話すことで、より自分の成長を感じることができた。授業参観などでも実施することで、保護者と一緒に児童生徒の道德教育を行うことができる。

（主体的・対話的・深い学び）

課題：年間計画などに記載し、計画的に実施する必要がある。

・手立て⑤ 自己の生き方を考えさせる振り返りの工夫

成果：「振り返り」の時間を十分にとり、今までの自分自身のことを思い出しながら書かせることによって、深い学びへとつながっていく様子が見られた。また、低学年では、役割演技を行うことで振り返りを行うことで、書くことが苦手な児童にも自分の考えや生き方を振り返らせることができた。

（深い学び）

課題：なりたい自分をイメージさせるには、個人で振り返りを書いた後に発表の場面をしっかり取ることが必要である。また本時で考えたことを共有し、教師が価値付けることで、さらに学びが深まっていくと考えられる。

3 資料

以下の表は、教師の思いと考えられる手立てを表にしたものである。是非ご活用頂きたい。

手立て 教師の思い	学習 テーマ	ペアやグ ループの 話し合い	役割 演技	人材の 活用	振り 返し	指導の留意点
話し合いを活発に したい	○	◎	○	○		・グループ作りは意図的に行った方が 良い場合がある。（同じ意見同士、 異なった意見のグループなど）
あまり参加でき ない児童生徒へ のきっかけ作り		○	◎	◎		・役割演技は小物を活用すると良い。 ・人材の活用は、計画的に行う必要が ある。
自分事として考 えさせたい	○		○		◎	・振り返りを書いた後は、全体で共有 することで、さらに学びが深まる。
多面的・多角的 に考えさせたい	○	◎		◎		・小中連携だけでなく、授業参観で保 護者に話し合いに入ってもらいやり方 もある。

◎：非常に有効である ○：有効である

IV 実践例

学習テーマを設定した授業①（平成30年11月1日）

第5学年 B相互理解、寛容 「すれちがい」

授業者 北小学校 佐々木祐太

(1) 展開

学習活動 ○主な発問	・指導上の留意点
1 学級アンケートの結果から、問題意識をもつ。《手立て①》 ○どんなことで友達とけんかになりますか。 ○相手を許すことはできますか。	・アンケートに触れることで、ねらいとしている価値について考えさせる。 ・道徳的価値との関わりで自己を見つめられるような学習テーマを設定する。
学習テーマ 相手を許すためには、どんなことが大切なのだろうか。	
2 教材を読み話し合う。 ○ピアノの先生の家で怒っているとき、二人はどんなことを思っているのでしょうか。 ○なぜ二人はその場で仲直りできなかったのでしょうか。 《手立て②》	・場面絵や短冊を用い、内容を可視化する。 ・よし子とえり子の双方に言い分があることに気付かせる。 ・書く活動を通して、児童が自分を見つめ、じっくりと考えられるようにする。 ・尋ね歩きを通して、仲直りできない理由について、多面的・多角的に考えられるようにする。
3 学習テーマについて考える。 ○互いに相手を許すためには、どんなことが大切ですか。 《手立て①》	・導入で提示した学習テーマについて考えることで、相手を許すことについての考えを深められるようにする。
4 学んだことをもとに、自分自身の経験を振り返る。	

(2) 手立てと成果

手立て① 児童生徒の問題意識を基にした学習テーマの設定（図①）（図②）

本学級の多くの児童が「相手を許すことができる」と回答していた。また、「許し合うことでその後も仲良しになれる」という考えも出た。そこで、「許すことって難しいことだけれど、多くの人ができているようです。では、許すためにはどんなことが大切になるのだろう。」と投げかけ、本時の学習テーマを設定した。

また教材についての話合いの後で、再度、学習テーマについて考えた。「相互理解、寛容」についての学習は、「友情・信頼」や「親切・思いやり」など、他の内容項目にも関係し、授業の中で価値がずれてしまう難しさがある。学習テーマを設定し、話し合ったことで、「相互理解、寛容」について学習を焦点化することができた。



図①



図②

手立て② 話合いの工夫（尋ね歩き）（図③）

尋ね歩きとは、児童が教室を歩き回り、いろいろな児童と考えを交流させる活動である。この活動を通して、発言していない児童の意見も広げることができたり、仲の良い児童同士でも互いの価値観が異なることに気付いたりすることができた。



図③

(3) 課題

学習テーマを設定し、自己を見つめられるように課題意識を持たせたが、「自分には許せなかった経験がない」とつぶやく児童もいた。しかし、深く話を聞いてみると、「自分もけんかをした後、数日間は仲直りできなかった」と話していた。このことから、学習テーマの設定に加え、自分自身の経験を振り返る手立ての工夫も必要になると改めて実感した。

学習テーマを設定した授業② (令和元年11月1日)

第5学年 A正直、誠実 「手品師」

授業者 中央小学校 塩浦仁美

(1) 展開

学習活動 ○主な発問		・指導上の留意点
1 学級アンケート結果から問題意識をもつ。 《手立て①》		・アンケートに触れることで、ねらいとしている価値について今の考えを出させる。 ・児童が道徳的価値との関わりで自己を見つめられるような学習テーマを設定する。
正直に生きることは大切な。	正直に生きていると社会は良くなるか。	
自分が不利な立場に立たされた時、うそをついたりごまかしたりしたことがある。	自分で物事を判断するときに、人の意見に左右されてしまう。	
学習テーマ 手品師はどのような人でしょうか		
2 教材の読み聞かせを聞き、手品師の気持ちについて話し合う。 ○「きつとさ、きつと来るよ。」と言ったとき、手品師はどんな気持ちだったでしょうか。 ○自分が手品師だったら、どちらに行きますか。 《手立て②》 ○男の子の前で手品を行っている手品師の気持ちについて話し合う。 ○手品師はどのような思いだったでしょうか。 3 学習テーマについて考える。 手品師はどのような人でしょうか。 《手立て①》 4 教師の説話を聞く。 ○誠実の語彙を学ぶ。《手立て⑥》		・男の子のために、約束をした手品師の気持ちに共感させる。 ・個人、ペア、全体と話し合いの範囲を広げる。 ・「自分だったらどうするか。」と考えさせることで、自分事として考えさせる ・行為の理由を明確にさせる。 ・男の子への同情の気持ちを抑えた児童には、相手を思いやる気持ちを認めながらも、手品師自身の生き方を通して、その清々しさに気付かせる。 ・アンケート結果をもう一度振り返るよう声をかけ、自分の生き方について見つめられるようにする。

(2) 手立てと成果

手立て① 児童生徒の問題意識を基にした学習テーマの設定 (図①)

正直に生きることは大切だと知っていながら、実生活の中で物事を決断する時や、不利な立場において、決断に迷いが出てきてしまうというアンケート結果を踏まえて、学習テーマを提示した。「手品師の選択や考え方を通して学習テーマについての自分なりの答えを出す」という授業の見通しがもて、主体的に考える意欲の向上につながった。

また、終末にも、学習テーマについて考える機会を設定すると共に、児童が出した答えと『誠実』という言葉とを結んだ。自分が出した答えの意味を深く考えることにつながった。



手立て② 話し合いの工夫 (個人、ペア、全体へと広がる話し合い) (図②)

個人で考えたことを、話し合う相手の人数を徐々に増やしていくことを通して、自分の考えに自信をもつことにつながった。そうすることで、他者と自分を比較して考えることにつながった。



手立て⑤ 自己の生き方を考えさせる振り返り

終末で、学習テーマと共に、アンケート結果についても振り返りを行い、自己の生き方について見つめられるように、声掛けをした。その結果、自分事として考えられた児童が増えた。

(3) 課題

話し合い活動では、児童の意見と道徳的価値を結び付けるための工夫が必要である。特に二者択一の教材の場合は、それぞれの生き様をはっきりさせる声掛けや問い返しが必要であり、そうした話し合いが、学習テーマを設定した手立てを効果的にするものと考えられる。

役割演技を活用した授業①（平成31年1月25日）

第4学年 B相互理解、寛容 「へらぶなつり」

授業者 明峰小学校 青木ふく

(1) 展開

学習活動 ○主な発問	・指導上の留意点
1 日常生活を想起させる。 アンケートの質問 ① 友達に対して怒ったことがある。 ② 友達が自分に何かをしてそれを許せないと思ったことがある。 ③ 友達に自分が何かをしてそれを許してもらえなかったことがある。	・アンケートの結果を提示し、自己を見つめられるようにする。
2 教材をもとに話し合う。 《手立て②》 ○どうして明は健二に怒っているのですか。 ○どうしてお父さんは明を許すことができたのですか。 ○電話で明は健二に何と伝えられますか。 《手立て③》	・怒りがこみあげて、健二の言葉が聞き入れられなくなる気持ちを共感させる。 ・謝る明に対して、父が責めなかったことを多面的・多角的にとらえられるようにするため、父の責めなかった理由を整理する。 ・全体の前で役割演技をする。健二を教師が行い、相手を許したすがすがしさを感じ取らせるために、明を子供に演じさせる。
3 今日の学習を振り返る。 ○今日の道徳で学んだことは何ですか。ワークシートに書きましょう。 《手立て⑤》	・自分の今までの経験を思い出させながら振り返らせる。
4 教師の説話を聞く。	

(2) 手立てと成果

手立て③ 役割演技の工夫（道具の活用）（図①）

本時では、電話をかける場面で、実際の電話を使用した。児童は具体的な場面設定がされることで主体的になり、多くの児童が取り組んでいた。



図①

手立て③ 役割演技の活用（教師との役割演技）（図①）

健二 「ブルル…はい。健二です。」
 (教師)

明 「家に帰って落ち着いて考えたんだけどさ、あのとき、せっかく健二が取ってくれようとしたのに、健二を責めるように怒って…本当にごめんね。」
 (児童)

健二 「ううん。気にしないで。わざわざ言ってくれてありがとう。」
 (教師)

今回の役割演技は、明が健二に電話をかける場面で行った。そこで、教師が健二役になり、児童の気持ちを受容することで価値理解を深めることができた。教師が役になることで、教師が考えさせたいと思った価値をより理解させることができた。

手立て② 話し合いの工夫（グループでの話し合い）（図②）

児童が考えたことを発表させるだけでなく、児童同士で話し合う時間をとることで、学級全体での話し合い活動も意欲的に行うことができた。



手立て⑤ 自己の生き方を考えさせる振り返りの工夫

終末では、役割演技で体験的に活動したことを通して、今までの自分を振り返らせた。実際に演じたり友達の演技を見たりしたからこそ、自分の経験に即して考えることができた。

(3) 課題

役割演技で教師が相手役になる場合は、教師が児童にどんな価値に気付いてほしいのかによって演じ方が変わってくる。また、演技を見る児童にもポイントを伝え、主体的に参加させる必要がある。

役割演技を活用した授業②（令和元年9月24日）

第1学年 A 善悪の判断 「だれも見えていない」

授業者 伸栄小学校 菊地千尋

(1) 展開

学習活動 ○主な発問	・指導上の留意点
1 夏休みの作品展を振り返る。	・みんなの作品を見たときの自分の気持ちや作品に込められた友達の思いを想起させる。
2 あらすじを知る。	・登場人物について紹介する。
3 教材の読み聞かせを聞き、登場人物の言動について話し合う。	・たけしやかんたの気持ちを考えながら、話を聞くように声かけをする。
○触ったところがぼろっと床に落ちたとき、たけしくんはどんなことを考えたでしょう。	・意図していない結果になってしまった主人公の気持ちを考えさせ、焦りや不安な気持ちに共感させる。
○かんたくんは、たけしくんは何と言ったでしょう。《手立て②・③》	・2人組で意見の発表を行い、その後、代表児童と教師とで役割演技を行う。役割演技後には、なぜその声かけをしたのか理由も発表させる。
①悪い点を指摘 ②直して放置 ③謝ることを促す ④一緒に謝る	・出た意見を分類分けしながら板書する。
○あなただったら、どうしますか。《手立て③》	・多くの意見を踏まえ、自分はどうか行動するかを考えさせる。理由もつけて発表させる。
4 今までの自分を振り返り、よりよい生き方を考える。《手立て⑤》	・実生活を基にした声かけや行動ができる場面を取り上げ、役割演技を行う。
5 今日の学習で学んだことをまとめる。	・演技をした児童にやってみた気持ちを聞く。よい行動をするとすっきりした気持ちになることに触れ、意欲につなげる。
6 教師の説話を聞く。	・クラスのよい行動を紹介し、意欲につなげる。

(2) 手立てと成果

手立て② 話し合いの工夫

（2人組での意見の伝え合い）（図①）

事前アンケートの結果、「クラス全体の前で自分の意見を言える」と答えた児童が半数以下だったため、安心して自分の意見を友達に伝えられるように、2人組での発表を取り入れた。その後、全体で発表した時には、自信をもって意見を発表する児童が多く見られた。



図①

手立て③ 役割演技の工夫（教師との役割演技）（図②）

普段から「4組劇場」と題し、役割演技を行っており、役割演技を楽しみにしている児童が多い。役割演技を取り入れたことで、より積極的に発表する姿が見られた。



図②

また、実物を用いながら、大げさに反応したり、教師から切り返しの言葉かけをしたりしたことで、考えを深めることにつながった。

手立て⑤ 自己の生き方を考えさせる振り返りの工夫

実生活の中で「善悪の判断」につながるような場面を取り上げ、役割演技を用いて振り返りを行った。先に教師が悪い例を見せ、児童がよりよい行動を考えやすくなるようにした。



図③

・友達の植木鉢を倒してしまったとき ・兄弟の分のおやつを食べてしまったとき

(3) 課題

役割演技は、発表する児童だけでなく、周りの児童の参加の仕方をさらに指導することで、より考えの深まりにつながると感じた。

- (例) ・演技した児童の心情を問い、気持ちのよさを確認することで、価値の深まりに気付かせる。
・教師と児童が演じた時の心情を比べさせ、その違いに気付かせる。

小中連携を生かした授業①（平成31年2月19日）

第6学年 Dよりよく生きる喜び 「青の洞門」

授業者 T1 伸栄小学校 菊地千尋 T2 美原中学校 鈴木斐洋

(1) 展開

学習活動 ○主な発問	・指導上の留意点
1 青の洞門の写真を見せ、教材について知る。 《手立て②》	・写真を見せ、教材への興味を高める。 ・教材文が長いので、事前に読ませておく。 ・あらすじや登場人物を確認し、読み聞かせはしない。
2 教材をもとに話し合う。 ○了海が穴を掘り続ける姿を見て、村人たちはどう思っていたでしょう。	・困難なことを続けているときの思いを考えさせ、了海の決意の固さに気付かせる。 ・村人たちの様子から困難なことには目を背けたくなる人間の弱さに気付かせる。
○実之助は、なぜ洞窟の完成まで敵討ちを待とうとしたのでしょうか。	・長年かけて探した父の仇であり、憎悪の心境であったのに、心を揺さぶられる実之助に共感させる。実之助に敵討ちを待たせるほどの了海の考えや行動が表れていることに気付かせる。
○実之助は、どんな思いで了海の手を固く握っていたのでしょうか。 《手立て②・④》	・二十年間探し続けた相手の敵討ちを辞めた思いを考えさせ、了海の行動が人の心を動かす生き方であることに気付かせる。 ・了海が洞窟を作るきっかけが償いであったことにも触れ、了海自身の中でも気持ちの変化があったことに気付かせる。
3 今までの自分を振り返り、よりよい生き方について考える。 ○人の心を動かす生き方はどんな生き方でしょう。 《手立て④》	・ <u>中学校の先生から中学生の感想を聞き</u> 、自分の考えを深めさせる。
4 教師の説話を聞く。	

(2) 手立てと成果

手立て② 話し合いの工夫（考える時間の確保）（図①②）

長い教材文なので、事前に各自読ませておき、本時では読み聞かせはせず、あらすじを確認した後、発問を進めていった。板書にも教材の内容を残したことで、発問ごとに背景を確認しながら、学習を進めることができた。

また、発問の場面（実之助が了海の手を固く握る場面）を児童とやってみせることで、教材の流れを想起させ、説明を繰り返さなくてもいいように工夫した。

手立て④ 他校の児童生徒や教員などの人材の活用（図③）
（中学生の意見の紹介・中学校教員とのT T）

事前に中学生にも「青の洞門」の授業を行い、その意見や感想を本時の中心発問で紹介した。このことで多くの意見に触れることができ、自分の考えを深めることができた。

中学校教員がT2として参加したことで意欲が増した。中学校への憧れが強くなる卒業間近の2月に行ったことで、より興味をもって話を聞くことができたと考えられる。中学生の意見を紹介したときには、児童が大変集中して話を聞いていた。児童自身が中学生になったときの将来像を想像しながら聞き、考えを深めることができた。

(3) 課題

意見を紹介する前に、なぜ中学生の意見を聞くのか、どのような視点で意見を聞くのかを明確にして伝える必要がある。

また、小中連携のみならず、同じ中学校区の小学校同士で意見を紹介し合うことも、考えの深まりにつながるのではないかと考える。



図①



図②



図③

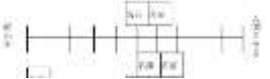
小中連携を生かした授業②（令和元11月19日）

中学第3学年 C 遵法精神 「二通の手紙」

授業者 T1 美原中学校 鈴木斐洋

T2 中央小学校 塩浦仁美 T3 伸栄小学校 菊地千尋

(1) 展開

学習活動	○主な発問	・指導上の留意点
1 学級アンケートを踏まえながら、学習テーマについて考える。	(1) 集団生活や社会生活で一番大切なことはなんだと思いますか。 (2) きまりを守るのはなぜだと思いますか。 (3) 今までにきまりを破ったことがありますか。	・アンケートにふれることで、ねらいとしている価値について考える。
2 教材から元さんの行動について話し合う。 《手立て④》 ○「元さんは子どもたちを入園させたほうがいいのでしょうか、断ったほうがいいのでしょうか。」		・二つの考えを話し合うことで元さんの心情を理解させる。 ・心情スケールを活用し行為の是非について話し合う。 
3 元さんの行動から規則を守る大切さを考える。 《手立て④》 ○元さんが言った「この年になって初めて考えさせられたこと」はどんなことでしょう。		・規則を破ることが社会の秩序を乱し、他者の生命を脅かす場合もあるので、個人的な感情などで破ってはいけないことをおさえる。
4 社会にはなぜきまりというものがあるのかを考える。		・規則を守ることは、すべての人の権利を守ることにつながる事をおさえる。
5 教師の話を聞く。 《手立て④》 ○小学校の先生から今日の振り返りや学んだことと関連する話を聞く。		・小学校の先生の話聞くことにより、自己の成長を実感し、実践意欲を高める。

(2) 手立てと成果

手立て④ 他校の児童生徒や教員などの人材の活用

(複数教員による授業展開)

小学校の教員2名を授業に加え3人で道徳の授業を行った。T1、T2、T3で役割分担を行うことで効率よく授業を進めることができた。役割分担は、T1（授業の進行）T2、T3（話合いの参加。板書担当。教材の読み聞かせ。最後の説話）で行った。

手立て④ 他校の児童生徒や教員などの人材の活用

(小学校教員が話合いに参加) (写真)

小学校のころから自分たちを知っている教員と一緒に規則について考えることで、今までの自分を振り返り、より自分の事として規則について考えることができた。その際には小学校の先生の考えや小学生の実態にふれることで、規則について多面的・多角的に考えることができた。



手立て④ 他校の児童生徒や教員などの人材の活用 (小学校教員が説話)

小学校の教員が、生徒の成長した様子を認める説話（挨拶が良かった）や、価値に関係した説話（ラグビーはチームで決まりを守ることが大切）をした。その結果、自己の成長を実感し実践意欲を高めることができた。

(3) 課題

複数教員が授業に参加するためには時間調整や板書を書く際など詳細な打ち合わせが必要だった。複数の教員が授業に入る際には、全員の生徒に偏りなく教員がかかわれるような工夫も必要であった。